

2015年10月5日 全5頁

失望的な雇用の伸び

2015年9月米雇用統計：賃金も伸び悩み、総じて弱い結果

ニューヨークリサーチセンター
エコノミスト 橋本 政彦

[要約]

- 9月の非農業部門雇用者数は前月から+14.2万人の増加となり、市場予想を大きく下回った。また、過去分の下方修正も併せるとヘッドライン以上に失望的な結果であった。
- 9月の失業率は5.1%と前月から横ばいとなり、市場予想通りの結果であった。ただし、就業者数が前月差▲23.6万人と大幅に減少するなど内容はポジティブとは言えない。失業者数は同▲11.4万人減少したが、非労働力人口が同+57.9万人増加したことが失業率を押し下げた。
- 賃金動向については、民間部門の平均時給は前月比▲0.0%となり、市場予想を下回った。失業率が自然失業率に迫る水準まで低下し、労働需給がタイト化する中でも、賃金上昇はなかなか加速しない状況が続いている。
- 9月の雇用統計は、非農業雇用者数の増加幅が市場予想を大きく下回り、景気減速に対する懸念が高まる結果となった。次回の10月FOMCで利上げが開始される可能性は低下したとみられる。年内は利上げ見送りと観測も高まりつつあるが、大和総研では以前からの12月利上げ開始というメインシナリオに変更はない。

非農業部門雇用者数は市場予想から大幅に下振れ

9月の非農業部門雇用者数は前月から+14.2万人の増加となり、市場予想（Bloomberg調査：+20.1万人）を大きく下回った。過去分についても7月（前月差+24.5万人→同+22.3万人）、8月（同+17.3万人→同+13.6万人）ともに下方修正され、7月、8月の合計では▲5.9万人下方修正された。過去の傾向では8月分は事後的に上方修正されることが多く、今回も上方修正が期待されていたため、過去分の下方修正も併せるとヘッドライン以上に失望的な結果であった。8月に比べれば9月の増加幅はわずかに拡大しているものの、2ヵ月連続で20万人を大きく下回る水準まで減速し、3ヵ月移動平均値も+16.7万人まで低下した。雇用者数の増加自体は続いているものの、足下で増加ペースが鈍化している。

製造業の雇用者数が2ヵ月連続で減少、サービス業も増勢鈍化

雇用者数の増減を部門別に見ると、民間部門は前月差+11.8万人となった。前月からは増加幅が拡大しているが、天候要因によって経済活動が抑制された3月と同程度の伸びに留まった。また、前月から雇用者数が増加している業種の割合を示す雇用DIも52.9%と、2010年2月以来の水準まで低下しており、増勢の鈍化が広がりつつある。

民間部門のうち、製造業の雇用者数は前月差▲0.9万人と2ヵ月連続で減少した。ここ数ヵ月雇用者数の減少傾向が続いている金属製品（同▲0.45万人）、機械（同▲0.35万人）、コンピューター・電子機器（同▲0.28万人）、一次金属（同▲0.08万人）などの耐久財関連業種で減少が続いた。また、非耐久財関連業種でも、化学（同▲0.12万人）、プラスチック・ゴム製品（同▲0.12万人）など幅広い減少で雇用者数が減少した。なお、製造業全体が減少する中でも雇用者数の増加基調が続いている輸送用機械は同+0.29万人となり、堅調な自動車販売を背景に増加を維持した。

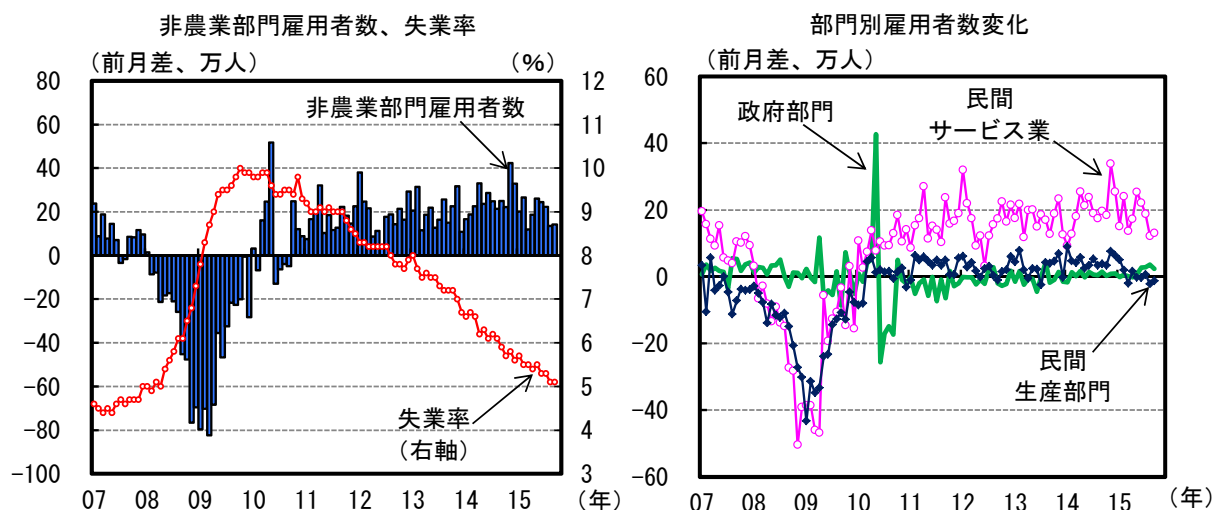
鉱業・林業は前月差▲1.2万人と9ヵ月連続で減少し、減少幅は前月から拡大した。年央にかけて雇用削減の動きは一時落ち着きを見せていたが、原油価格の低迷を受けて減少幅は再度拡大しつつある。建設業の雇用者数は同+0.8万人増加した。住宅建設を中心に建設投資は好調であり、緩やかな増加基調が続いている。

サービス業の雇用者数は前月差+13.1万人となった。8月（同+12.2万人）からは若干増加幅は拡大したものの、2014年後半から2015年前半に比べると増加幅は小さく、足下で増加ペースが鈍化している。ヘルスケア関連の増加幅縮小に加えて、教育が2ヵ月連続で減少したため、教育・医療は同+2.9万人と前月から増加幅が縮小した。また、金融業は前月から横ばいとなり、2013年10月以来続いてきた増加に歯止めがかかることになった。流通・運輸・公益（同+2.3万人）、専門・企業向けサービス（同+3.1万人）レジャー・娯楽サービス（同+3.5万人）では、前月から増加幅が拡大しているが、これはいずれの業種も前月の増加幅が小幅に留まっていたため、均して見れば足下で減速傾向にある。ただし、これらのサービス業では、確認できる8月までの求人は増加し続けており、求人率も高い。雇用者数増加ペースの鈍化は景気悪

化による労働需要不足によるものとは言い切れず、ミスマッチによる供給不足が影響している可能性がある。

一方、政府部門の雇用者数は前月差+2.4万人と、増加ペースが前月からは鈍化したものの順調なペースで雇用が拡大している。連邦政府（同▲0.2万人）では減少したが、州政府（同+1.7万人）、地方政府（同+0.9万人）の増加が押し上げ要因となった。

図表 1：非農業部門雇用者数と失業率、部門別雇用者数変化



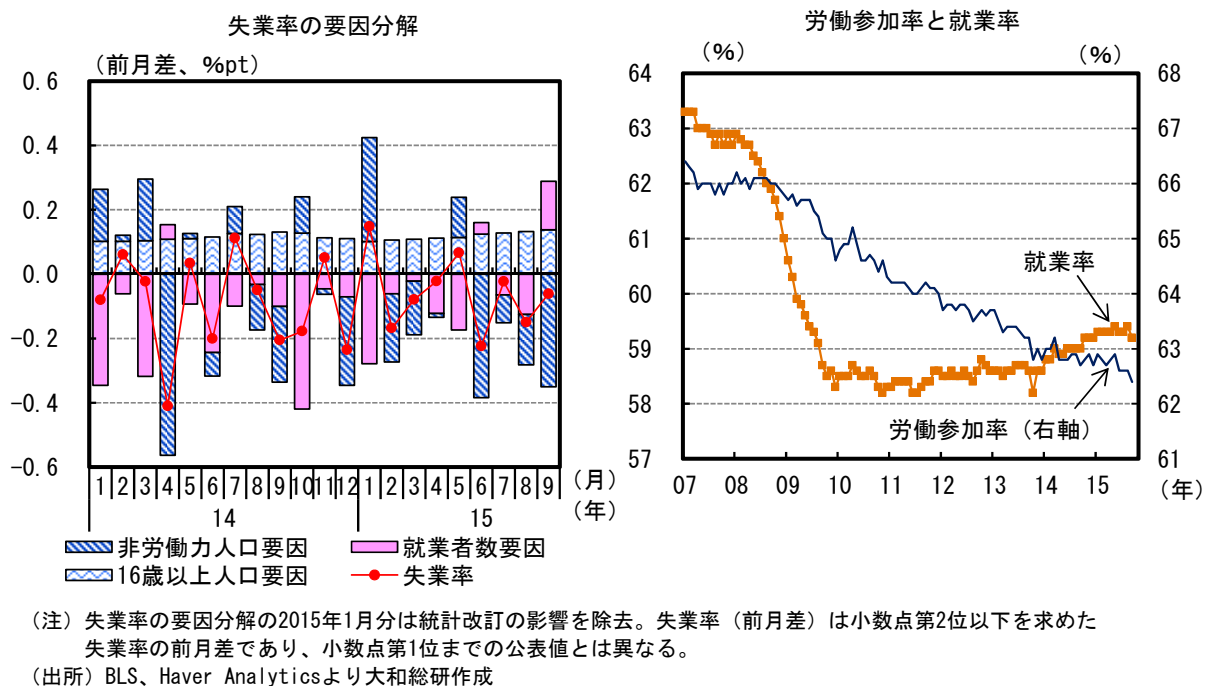
(出所) BLS、Haver Analyticsより大和総研作成

非労働力人口の増加が失業率を押し下げ

非農業部門雇用者数が期待外れの結果となる一方で、9月の失業率は5.1%と前月から横ばいとなり、市場予想通りの結果であった(小数点第2位以下まで見ると、前月からわずかに低下)。ただし、内容としてはポジティブとは言えない。失業者数は前月差▲11.4万人減少したが、同時に就業者数も同▲23.6万人と大幅に減少しており、非労働力人口が同+57.9万人増加したことが失業率を押し下げた。労働参加率は前月から▲0.2%pt 低下し62.4%となった。

失業者数の内訳を失業理由別に見ると、会社都合による「非自発的失業」が前月差▲16.2万人と、2ヵ月連続で減少した点は好材料である。「自発的失業」(同▲1.0万人)、「新たに求職」(同▲1.9万人)も前月から減少したが、このところ減少傾向が続いていた「労働市場への再参入」(同+8.7万人)は6ヵ月ぶりに増加した。失業期間別では、前月大幅な増加が見られた5週未満の失業者数が同+26.8万人と増加に転じたものの、5週以上の失業者数は同▲27.5万人減少、特に27週以上の長期失業者数は同▲8.3万人と大きく減少し、前月、前々月の増加を帳消しにした。失業者に占める長期失業者の比率は26.6%と前月から▲1.1%pt 低下、失業期間の中央値は11.4週、平均値は26.3週といずれも前月から短期化した。失業者の状況については前月からやや改善が進んだと言える。

図表 2：失業率の要因分解、労働参加率と就業率

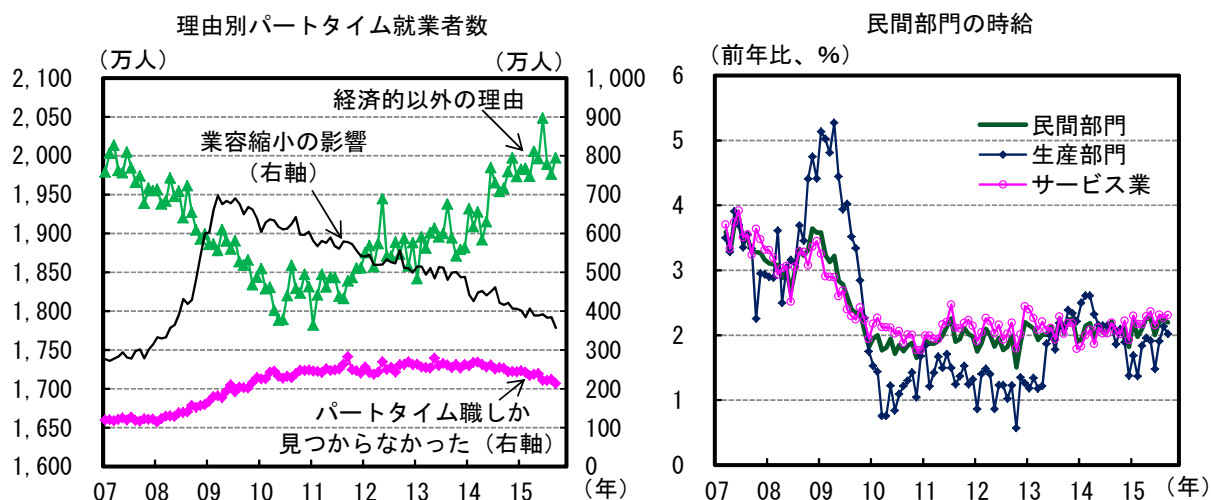


経済的理由によるパートタイム就業者は減少、時給は前月からほぼ横ばい

経済的理由でパートタイム就業者となっている人の数は、前月差▲44.7万人と大幅に減少し、603.6万人となった。「業容縮小の影響」によるパートタイム就業者が同▲27.2万人減少したことに加えて、「パートタイム職しか見つからなかった」ことによるパートタイム就業者も同▲10.8万人減少した。就業者に占める経済的理由によるパートタイム就業者の比率が前月から低下した結果、広義の失業率（U-6）は10.0%と、前月から▲0.3%pt低下した。

他方で、賃金動向については、民間部門の平均時給は前月比▲0.0%となり、市場予想（Bloomberg 調査：前月比+0.2%）を下回った。前年比で見た時給変化率は+2.2%と前月から変わらなかった。業種別に見ると、建設業の時給が前月比▲0.5%と低下したことに加えて、製造業、鉱業でも前月からほぼ横ばいに留まったことから、生産部門の時給は3ヵ月ぶりに低下した。また、サービス部門の時給も上昇幅が前月から縮小し、ほぼ横ばいに留まった。教育・医療、レジャー・娯楽の時給が低下に転じたことに加えて、流通・運輸・公益、情報、金融、専門・企業向けサービスなど、前月から時給が上昇した業種でも、その上昇幅は軒並み縮小している。失業率は自然失業率に迫る水準まで低下し、労働需給がタイト化する中でも、賃金上昇はなかなか加速しない状況が続いている。

図表3：理由別パートタイム労働者数、民間部門の時間当たり賃金



10月利上げ開始の可能性は後退、利上げ見通しは維持

9月の雇用統計では、長期失業者や経済的理由によるパートタイム労働者が減少するなど、一部で労働市場の質の改善が見られた。しかしながら、ヘッドラインである非農業雇用者数の増加幅は市場予想を大きく下回り、景気減速に対する懸念が高まったことから、総じて見れば弱い結果と言わざるを得ない。FOMC（連邦公開市場委員会）で投票権を持つサンフランシスコ連銀のウィリアムズ総裁が、非農業部門雇用者数の増加幅が10万人程度でも利上げ開始には十分との見解を示しているように¹、10月FOMCによる利上げ開始の可能性は完全には排除できない。しかし、10月FOMCで利上げが開始される可能性は低下したとみられる。今回見られた雇用者数増加ペースの鈍化が、金融市場の混乱や海外経済の減速の影響をどの程度受けたものかの判断は難しく、その影響を見極めるためにはもう少しの時間が必要であろう。なお、12月FOMCまでに雇用統計はあと2回公表される。年内は利上げ見送りとの観測も高まりつつあるが、大和総研では以前からの12月利上げ開始というメインシナリオに変更はない。

¹<http://www.frbsf.org/our-district/press/presidents-speeches/williams-speeches/2015/october/economic-outlook-live-long-and-prosper-community-leaders-luncheon/>